

備前市事務事業評価表

事務事業名	加子浦歴史文化館管理運営事業		コード	03-03-01-03
			担当課・係	生涯学習課 文化係
			担当者	村上節子
			電話	0869-72-9026
事業実施期間				
総合計画 事業（政策）体系	大項目(基本目標)	地域文化と人が輝くまちづくり		
	中項目(基本施策)	歴史と文化の輝くまちづくり		
	小項目(施策)	文化施設の適正な管理運営		

事業について		
目的 (何のために)	郷土に関する歴史・民俗・文芸資料の収集と保存に努め、それらを後世に伝え、遺す。で収集した資料をもとに常設・企画展を行い、当館利用者の文化的向上と調査研究の一助となることを目的とする。	
対象 (誰・何を対象に)	市内外を問わず、小・中・高・大の全学生と生涯学習の立場の学習者。歴史研究者・郷土史研究者（愛好家）・文学研究者・観光客・資料寄託者。	
内容	教育機関に対しては、総合学習に対応できる内容を整え、マニュアル化しておく。一般に対しては、企画展を行い、新資料の発掘につとめ、郷土に関しての学習の場を提供する。さらに文化講座・歴史講座を開催して、学習者の理解の度合いを深め、文化の発展と向上を図る。研究者などには、個人情報保護法に抵触しない範囲で、求められれば資料を提供する。資料寄託者へは、資料の適切な管理を保证する。	

事業の目的、対象、内容を考えながら目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業の結果			
実施項目	17年度	18年度	
	回数など (単位)	回数など (単位)	回数など (単位)
企画展の入館者	1,504 人	832 人	
企画展の開催日数	169 日	62 日	
教育機関の利用者数	(4回) 159 人	(5回) 235 人	
開催講座の参加者数	(2回開催) 58 人	(6回開催) 308 人	

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業費 (単位：千円)	事業費		財源		事業費		財源	
	直接事業費	5,940	間接補助金等		直接事業費	5,776	間接補助金等	798
	人件費	10,150	委託費負担	497	人件費	4,560	委託費負担	590
	市債			市債				
合計	16,090	一般財源等	15,593	合計	10,336	一般財源等	8,948	
				合計	0	一般財源等	0	

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

結果指標	結果指標名	入館者総数	入館者総数	
	結果指標量	2,756	3,438	
	単位	人	人	
	対前年比	89.01%	124.75%	0.00%
結果指標	活動にかかるコスト	5,919,662 円	5,755,518 円	
	単位当たりコスト	2,147 円	1,674 円	
	結果指標名	文化講座の参加者	文化講座の参加者数	
	結果指標量	58	308	
	単位	人	人	
対前年比	-	531.03%	0.00%	
活動にかかるコスト	20,000 円	20,000 円		
単位当たりコスト	345 円	65 円		

事業の成果			
どのような成果を得ようとしているか	企画展入館者と市民文化講座への参加者の増加をめざし、その結果文化的なものを求める熟慮と研究心とを定着させる。		
成果指標名	年間入館者数及び講座参加者	式又は説明	1年間の入館者総数と市民文化講座の参加者総数の合計
	17年度	18年度	
成果指標量	2,814	3,746	
対前年比	90.80%	133.12%	0.00%
到達目標値	3,250 (3,100 + 150)	到達目標年度	平成19年～平成21年

事務事業の評価		(平成18年度事業)	
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 関係法令等で目的が定められており妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化しつつある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である (関係法令等： <input type="checkbox"/>)	妥当性評価<A~E> A 課題認識
	対象の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者の拡大を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 受益者の縮小を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 現在の対象者は妥当である	平成18年度は、昨年開始した市民文化講座の参加者が非常に増加し(250人増)、入館者数も非常に増加した(682人増)。当館の事業利用者数からみて、目的・対象・市民ニーズの妥当性はA評価を与えることができると思うが、市がもっと予算面で積極的に関わって、施設の老朽化や環境の美化の面をカバーしてほしいと思う。
	市民ニーズの妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請のある事業である <input type="checkbox"/> 市民に概ね好評な事業である <input type="checkbox"/> 公共秩序の維持、行政の適正運営に必要な事業である	
	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 国・県又は関係法令で定められている事業である <input type="checkbox"/> 民間に類似サービスがある <input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与すべき事業である <input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の影響は大である	
コストの効率化	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは増加傾向にある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力をしている <input type="checkbox"/> できる限り民間活力を利用している <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担額は適正である	効率性評価<A~E> B 課題認識	
有効性の評価	手段の最適化	<input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で確認・見直しを行っている <input checked="" type="checkbox"/> 他に有効な代替手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 事業は他部署と密接な連絡調整を行っている	昨年と比較すると平成18年度の入館者1人当たりのコストは、477円、市民文化講座参加者1人あたりのコストは、280円。コストの大幅な削減はできたが、事業の事務改善等の作業効率の向上は、事務方と企画・実行の業務の分担ができていないために、効率が悪い。文化事業の内容を深化し、文化施設の充実を図るためには、上記の業務の分担が必要であるが、当館はこれを1人でこなしている。事業の本当の意味での発展のためには、事務職員1名の増員が必要。
	職場の効率化	<input checked="" type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている <input type="checkbox"/> 事業に関するOJT(職場研修)は行われている <input type="checkbox"/> 事業の進行管理を定期的に行っている <input type="checkbox"/> 事業実施について職員の意見・要望が反映されやすい	
有効性の評価	目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している	課題認識 A
	成果向上の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである <input type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある	平成18年度は、成果指標をはるかに凌駕し、ボランティアとして個人的に協力してくださる人材もできた。課題としては、これらの人々の輪をすこすこ大きくしていくこと。
市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている		

平成19年度の状況	<input type="checkbox"/> 重点化している <input checked="" type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している <input type="checkbox"/> 見直し継続している <input type="checkbox"/> 事業を縮小している	<input type="checkbox"/> 休止している <input type="checkbox"/> 他の事業と統合している <input type="checkbox"/> 平成18年度で廃止・完了	説明 当館の企画した展覧会の入館者および市民文化講座に参加した人数の合計は、昨年設定した成果指標(3,000人)をはるかに上回ったので、今年はそれをできるだけ下回らないよう、成果数値の定着に努力したい。
目標値	結果指標量 3,100人	結果指標量 150人	
	成果指標量 3,250人		

総合評価	平成18年度の入館者数と市民文化講座の参加者が昨年とくらべて一挙に増加した理由を考えると、前者はNHKなどのテレビ局が企画に興味を持ち報道してくれたことが、大きな理由であろうと思う。後者はボランティアの講師を依頼し、地域に密着した話題性を市民に提供できたからであろう。「企画の面白さと地域性とが効果的に重なったとき、文化事業は効果を奏する」。この結果を今後もいかし、さらにボランティアを増員して経費を削減していく必要がある。	評価区分 <A~E> B
------	--	---------------------

平成20年度以降の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了 <input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する
--------------	---	--

平成20年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
効率性	上期のように事務方の職員を1名増員する。	平成20年	文化事業の評価のうち、入館者数による数字ではあられさせない、内容面を深めることができる。
効率性	同上	平成20年	2名の職員配置ができていないため、シルバーに委託している施設管理業務が節約できる。